

第 1 号議案

平成 14 年度活動報告

特定非営利活動法人 古川学人
理事長 佐々木 源一郎

特定非営利活動法人『古川学人』が吉野作造記念館の管理、運営を受託し一年が経過いたしました。公共施設（サービス）管理運営の民間委託は以前からありましたが、NPOの理念に基づき、民間と行政との対等なパートナーシップを謳って取り組むのは、古川市としては初めてのことと思います。

とにかく、何から何まで参考にすべき前例というものがななかで、すべて手探り状態で進めてきたこの一年でした。

しかしそのなかでも、これだけは終始一貫守るべきこととして念頭においていたのは次のようなことです。

それは、吉野作造記念館は、設立の経緯から考えても多くの市民の熱意の結晶であり、その市民の共有財産たる記念館ならびに収蔵物の適切な保存、ならびに有効な活用を図らなければならないということです。この、保存と活用という、相矛盾した行為をいかにして両立させるか、そのための試行錯誤をくり返しながら一年が過ぎたというのが実情であろうと考えています。

実施事業について

平成 14 年度は別紙報告書の通り、数多くの事業を展開してまいりました。一つひとつの事業についてははしかるべき評価をまちたいと思いますが、それらに共通する要件として、各年代層を想定した事業計画、吉野の業績、人物像に対する理解の深度に応じた事業計画ということを中心に心がけました。

いずれの場合でも、まずはこの記念館の存在を知ってもらい、より以上に親しんでもらう。さらには、吉野の思想を理解してもらい、その上でそれらの現代的意義を、それぞれの人がそれぞれに構築して頂きたいと考え、企画、実施してまいりました。

管理報告

吉野作造記念館の管理は、建物と収蔵物双方の本来のありかたを前提に、足らざるところを改善してまいりました。来館者の安全と、展示、収蔵物の保護ならびに業務の効率化のため、以下の各施策を実施いたしました。

1. 空調設備の点検

展示室並びに収蔵庫には貴重な文献、資料が多数保管されていますが、これは、適切な温湿度管理が欠かせません。そのため、空調設備の一斉点検を実施しました。その結果、簡単な修理で改善されるものについては即刻実施。機械本体や構造上の問題については市教育委員会に報告し、適切な対処をお願いしています。

2. 給水ポンプ修理

定期点検において、ポンプ並びにパイプ接続部に異常が認められたので、交換修理しました。

3. 燻蒸の実施

展示、収蔵物の管理の一環として、全館燻蒸を実施しました。これは、紙資料等につく害虫などを駆除するもので、今後も定期的実施する必要があります。

4. 監視モニターの設置

当館展示室は受付カウンターと離れており、入館者の様子がわからない構造になっています。そのため、即座に不測の事態に対処できない可能性がありました。お客様の安全確保と展示品の管理のため必要の範囲内で監視モニターを設置しました。カメラは展示室内外に4台、研修室に2台で展示スペースのほぼ全域をカバーしています。

5. 温湿度計の導入

これまで展示室並びに収蔵庫の温度、湿度を確認する手段がありませんでした。管理上重要なことですので、温湿度計を導入し、24時間体制で記録しています。温湿度計2台（1台は教育委員会から提供、1台は購入）アスマン式乾湿計1台。

6. 収蔵庫扉錠開閉レバー改修並びに研修室フロアのアンカーボルト切断

既設の開閉ハンドルは内部からの操作ができなかったため、収蔵庫使用時は安全のため扉を開放したままで使わざるを得ませんでした。収蔵物管理上問題があるので、内外から操作できるように改修しました。

また、研修室のフロア前部に座席取付け用のアンカーボルトが突出して危険なので、切断しました。

7. 蔵書管理システムの導入

当館では、7~8,000点におよぶ書籍、書簡等文書、音声やビデオテープを保管しています。これらは貴重な財産として保管し、かつ有効に活用されねばなりません。そのため、コンピュータによる蔵書管理システム『情報館』を導入しました。現在のところ、まだ、入力作業中で、実際の稼働は平成15年夏以降になります。これによって、必要文献の検索が容易になり、研究、勉学に利便を提供することができます。

なお、これに先立ち、5日間の連続休館をして、保管資料の一斉点検を実施しました。

8. マイクロフィルムリーダープリンターの導入

各種複写文献の保管、活用に必要なマイクロフィルムの読み取り、印刷のためのシステムを導入しました。これまで、外注していたものが自前で用意できることになりました。

9. 屋上安全柵の改修

従来ワイヤーロープが張られているだけで、子供でも簡単に柵外に出ることができ、実際、ひさしやパラペット上で遊ぶ姿が見られました。そのため、市教育委員会を通じて、潜り抜けができないアルミ製面格子に変更していただきました。

10. 印刷機『リソグラフ』の導入

多量の印刷物を簡単に作成できるコピー型印刷機を導入しました。これによって、従来以上の広報活動が可能になります。

以上をもって活動の報告を致します。